

創業支援に関する 地域ワークショップを開催

▼地域経済の新たな担い手となる創業者のチャレンジを支えていくことは、地域とともに生きる金融機関にとっては、地域の活力や取引基盤を維持していく上でも、重要な課題となっています。

▼日本銀行金融機構局金融高度化センターでは、二〇一五年六月四日に、取引先金融機関を対象にした「地域創生に向けた創業支援への取組み」と題する金融高度化セミナーを開催しました。これに続き、支店と連携し、地方公共団体や経済団体等の方々も対象に含めた「創業支援に関する地域ワークショップ」を適宜開



札幌会場で講演をする中小企業基盤整備機構北海道本部 松尾経営支援部長



札幌会場で講演をする日本政策金融公庫北海道創業支援センター 小野所長

催していくこととしました。

▼第一回は、札幌支店、釧路支店、函館支店と連携して二〇一五年十月二十六日に札幌市で開催しました。参加者数は約五〇名でした。杉本芳浩^{ひろ}札幌支店長による開会挨拶の後、是永靖夫^{しんげい}金融高度化センター企画役が「地域創生に向けた創業支援への取組み」と題して講演しました。また、松尾一久氏（中小企業基盤整備機構北海道本部経営支援部長）が道内金融機関と連携した具体的な創業支援事例等を紹介した他、小野晋氏（日本政策金融公庫北海道創業支援センター所長）が道内での対応を含めた日本政策金融公庫の創業支援体制について説明しました。



神戸会場で講演をする中小企業基盤整備機構近畿本部 瀬戸口経営支援部長

▼第二回は、神戸支店と連携して十一月二十六日に神戸市で開催しました。参加者数は約五〇名でした。野原強^{つよし}神戸支店長の開会挨拶、是永企画役の講演の後、瀬戸口強^{つよし}氏（中小企業基盤整備機構近畿本部経営支援部長）が新規事業評価の着眼点や地域金融機関と連携した訪問アドバイザーの取組み等について講演しました。また、青木伸也氏（日本政策金融公庫神戸創業支援センター所長）による講演では、ビジネスプランの構築に悩む創業者に対し、積極的に支援の手を差し伸べることの重要性等が示されました。

▼第一回、第二回とも講演の後に一時間程度の意見交換を行いました

（モデレータ：山口市蔵^{くら}金融高度化センター副センター長）。「創業希望者の発掘方法」「金融機関での支援が困難な場合の対応」「創業支援融資の与信判断のポイント」といった創業支援の課題に対し、参加者から先進的な取組み事例の紹介や具体的な対応策が示されました。

▼参加者からは、「他の金融機関の取組み事例を聞き参考になった」「創業支援において、公的機関や地域の支援機関との連携の必要性を改めて感じた」といった声が聞かれました。

▼こうした地域ワークショップについては、今後、一〜二カ月に一回の頻度で、全国各地にて開催していく予定です。

▼地域ワークショップの講演および



神戸会場で講演をする日本政策金融公庫神戸創業支援センター 青木所長

意見交換の要旨・資料は、日銀HPの「金融システム」↓「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

鳥取事務所は開設七〇周年を迎えました

▼鳥取事務所では、昨年十月に開設七〇周年を記念し展示会を開催しました。

▼鳥取はお札とのゆかりが深く、肖像として最も長く使われた武内宿禰が昇天した地で、そこに建てられた宇倍神社は、全国の神社で初めてお札の図柄に採用されました。

▼展示会では、当地にゆかりのあるお札を展示したほか、三億円以上の



宇倍神社（鳥取市）と武内宿禰が採用された銀行券

銀行券の裁断層で造ったソファアーに座る体験なども企画したことから、マスコミにも報道され、大盛況でした。

▼詳細は、日銀HPの「日本銀行支店・事務所」↓「日本銀行鳥取事務所」↓「鳥取とにちぎん」のコーナーをご覧ください。

「第十二回日銀グランプリ」キャンペーンからの提言の決勝大会開催

二〇一五年十二月五日（土）

▼大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第十二回日銀グランプリ」キャンペーンからの提言の決勝大会を本店において開催しました。テーマは「わが国の金融への提言」。わが国の金融に関する課題の指摘と、それに対する処方箋の提案を競ってもらいました。全国各地の三七大学から一〇九編の論文が寄せられ、一次審査の結果、五チーム（東京国際大学、慶應義塾大学、成城大学、弘前大学、学習院大学）が決勝に進出しました。

▼決勝大会では、横尾敬介氏（経済

同友会副代表幹事、専務理事）、藤沢久美氏（シンクタンク・ソフィアバンク代表）の他、岩田規久男日銀副総裁（審査員長）、石田浩二・佐藤健裕両審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、弘前大学チームの「地方中小企業向け『健康プログラム』の可能性」医学（社会学）と行動経済学の知見をふまえて」が選ばれました。

「既存の『健康融資制度』の改善スキームを、行動経済学等の観点を取り入れたプログラムを組み合わせて



大勢の方が観戦するなか行われたプレゼンテーション



最優秀賞に輝いた弘前大学チームと審査員の皆さん

て考案し、現実味のある提案を行っている」点などが高く評価されました。この他、優秀賞二チーム、敢闘賞二チーム、特別賞一チームを以下の通り選出しました。

【優秀賞】（応募受付順）

●慶應義塾大学理工学部チーム

「公的年金制度三世、一体の改革

「マイナンバー／人口動向シミュ

レーションを用いた公的年金の役割

の再確認と持続性への改革提言」

【優秀賞】 および【特別賞】

●成城大学社会イノベーション学部

チーム

「日銀ナビゲーター」

編集後記

■今回のインタビュー・対談に登場していただいたのは、「映画字幕翻訳者」の戸田奈津子さんと「アートディレクター」の北川フラムさんでした。戸田さんには、映画字幕翻訳者の道をどのように切り拓いてこられたかという点を中心に話をいただきましたが、その中で作品やスターの話題がてんこ盛りに飛び交い、映画好きの私としては興奮冷めやらぬインタビューとなりました。また、北川フラムさんからは如何に美術家と地域住民が共鳴できるか、そこに至るまでのご苦労も語っていただきました。私自身は岡山支店で勤務していたころに瀬戸内国際芸術祭をみる機会があったため、その情景を思い浮かべながら大変興味深くお聞きしました。お二人の話をお聞きして思いついた言葉が「好きこそものの上手なれ」です。お二人の映画や芸術、スターや地域に対する愛情や情熱は、筆舌に尽くしがたい領域に達しているのではないかと感じましたが、今回何とか文章にまとめてみました。これらの記事を読まれたうえで、戸田さんが翻訳をつけた映画や北川さんがディレクターをしている芸術祭をみると、また格別なのではないでしょうか？ 読者の皆様には、ぜひお勧めしたいと思います。（高橋）

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2016年春号
編集・発行人 高橋経一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。



決勝進出5チームと審査員の皆さん

【敢闘賞】（応募受付順）

●東京国際大学経済学部チーム

「留学生に対するファイナンシャル・インクルージョン促進を目指して―留学生向け『エージェントバンク』設立提案―」

●学習院大学経済学部チーム
「クラウドファンディングを利用した江戸城再建と日本の森とシンボルの再生」

▼審査員からは、「多様な問題点や課題を把握し、それを

解決する具体的で実現可能性が高いと思わせるものだった。また、私たち日本銀行も真摯に耳を傾け、行動することを求められる提言がみられた」「プレゼンテーションも、さまざま工夫がこらされていた。審査員から専門的かつ高度な質問を受けても、自分たちの考えを堂々と提示し、さらに審査員とその場で議論を深めていた。そうした皆さんの姿は大変頼もしく、またうれしく感じた」との講評がありました。

▼日銀グランプリについては、日本銀行ホームページに専用コーナーを

設けて、概要、決勝参加チームの作品全文と審査員講評および佳作論文の要旨を紹介しています。

▼「日銀グランプリ」は、来年度も開催する予定です。全国各地で一人でも多くの学生の方々が、若者らしい問題意識に基づき、自ら主体的に調べ、考えることを通じて、金融面の課題に挑戦していただくことを心から期待しています。

